

■ベースメタル国際動向

1. 銅の国際市況と需給動向 (2004年11月)

金属企画グループ

(1) 国際価格

10月のLME相場は、9月下旬からのファンダ筋の資金流入加速により、10月8日には1995年7月以来の3,200ドル/t台へと続伸したが、その後、中国の景気減速報道等を受け、2,800ドル台に急落。11月に入り、ドル安やエルアブラ鉱山（チリ、03年産227千t：世界第16位）のスト材料等で再び3,000ドル台を回復し、高水準を維持している。

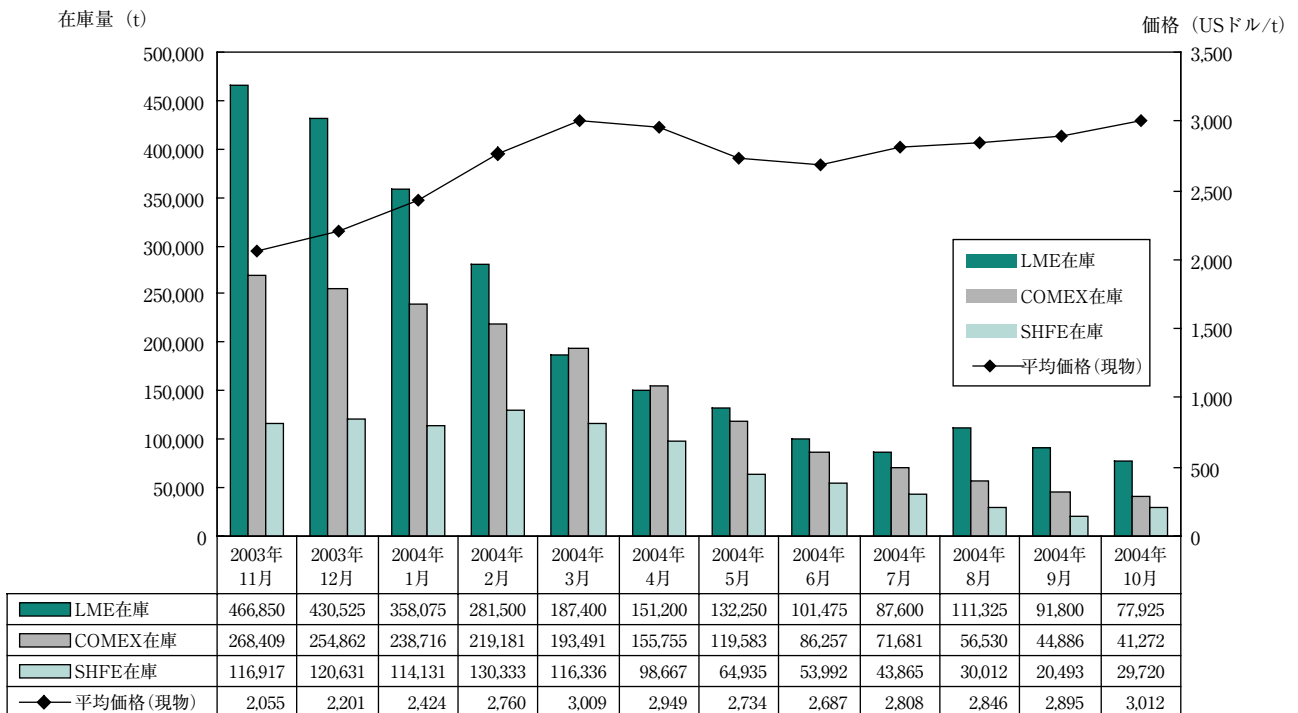
銅の国際価格は昨年秋以降、中国需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策等、さらに世界有数のグラスベルグ銅鉱山（インドネシア）での昨年10月と12月の2度にわたるオープンピット崩落事故による供給不足の懸念等から銅相場は一気に上昇し、今年3月には、1995年12月以来の3,000ドル/t台へ突入した。その後、銅大手のフェルプスドッジ、アサルコ社等の減産解除発表が相次ぎ、沈静化した。

10月に入り、原油高、ドル安を背景にしたファンダ筋の資金流入加速により再び3,000ドルを突破し、3,200ドル台まで高騰したものの、10月11日の国

際銅研究会速報で、中国の7月の銅消費が対前年同月比で約20%減少したという報道を受けて、10月13日に200ドル以上も下落（この下げ幅は8年振りのもの）。翌日も大きく下げ、2,800ドル台に急落した。その後はファンダメンタルズが依然堅調であることを下支えに2,900ドル水準で推移したが、10月28日には、中国の金利引き上げの報を受け、再び2,830ドルまで下落した。11月に入りドル安やエルアブラ鉱山（チリ）のスト材料等で3,000ドル台を回復している。11月30日現在、3,262ドル/tと高水準を維持している。

資料

ベースメタル国際動向



出典：国際銅研究会

図1-1 銅価格と銅在庫の推移

(2) 需給 (1~8月)

- ①1~8月の鉱山生産は3.2%増の9,408千t。鉱山の設備稼働率は1月の79.9%から8月の92.4%まで上昇。
- ②1~8月の精錬生産は2.7%増の10,288千t。うち一次製錬は0.7%増に留まり、二次製錬は中国の急増で18%の増加。稼働率は80%前後で変わらず。
- ③国別の1~8月需要量は、中国、米国、日本が軒並み好調で、世界計では前年同期比5.9%増の10,931千tで、生産増を上回るペースで拡大。
- ④その結果、1~8月の需給バランスは643千tの供給不足。但し、7月より供給過剰に転じており、供給不足量は減少している。
- ⑤一方、金属取引所の在庫量は依然減少傾向。

<供給>

1~8月期の鉱山生産は3.2%増の9,408.3千tであった。月別の鉱山生産を見ると、1~2月は月産1,100千t前後であったが、その後生産量を徐々に伸ばし、5月以降は1,200千t台となり、7月は2004年最高の1,256千t、8月は1,247.8千tとなった。鉱山の設備稼働率も1月の79.9%から6~7月は93%台まで上昇、8月は92.4%となった。1~8月の国別生産量は、最大生産国チリが273.3千t増、4位ペルーが114.4千t増となり、3位インドネシアの291.1千t減を補った。

1~8月期の精錬生産は2.7%増の10,288千tであったうち一次製錬は0.7%増にとどまり、二次製錬は中国が牽引し18%増。稼働率は80%前後で推移している。1~8月の国別生産量は、最大生産国のチリ(EW生産を含む、以下同様)が1.6%減、3位日本が1.9%減、4位米国が2.5%減であったものの、2位中国が13.6%増、5位ロシアが2.9%増、6位ドイツが5.3%増となっており、全体では265.7千t増加した。

<需要>

国別の1~8月需要量は、最大消費国である中国が6.9%増、2位米国10.0%増、3位日本4.8%増、と引き続き好調で、世界計では前年同期比5.9%増の10,931.1千tであった。7月の消費量が前年同月比19.1%と急減したことで注目される中国の8月の消費量は、対前年同期比5.5%減の245.7千tと依然減少傾向が続いている。

なお、7月の中国の銅消費が大きく落ち込んだことについて、中国政府は、公式な統計データは公表されていないとしてこの報道を否定している。

<需給バランス>

1~8月期は643千tの供給不足であった。2月から4月にかけて月毎に100千t台の供給不足が発生したが、その後供給不足量は減少し、7月には供給過剰に転じ、8月は64千tの供給過剰となった。

<在庫>

LME在庫は10月1か月で約13千t減少し、10月末時点で78千tに。さらに、11月に入っても減少傾向が続いており、11月30日のLME在庫は60千tまで低下。

表1-1 銅の需給状況

単位：千t

銅	2002	2003	2003	2004										対前年同期比 (%)
			1~8	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	1~8		
鉱山生産量	13,578	13,634	9,114	1,076	1,046	1,167	1,183	1,213	1,212	1,252	1,248	9,408	3.2	
地金生産量	15,355	15,225	10,022	1,264	1,217	1,314	1,280	1,270	1,283	1,325	1,336	10,288	2.7	
一次地金生産量	13,521	13,567	8,885	1,119	1,069	1,151	1,105	1,103	1,119	1,154	1,164	8,946	0.7	
二次地金生産量	1,834	1,658	1,137	145	148	163	175	167	164	172	173	1,342	18.0	
消費量	15,153	15,535	10,324	1,337	1,346	1,509	1,408	1,336	1,374	1,322	1,272	10,931	5.9	
需給バランス	202	-310	-302	-73	-129	-195	-128	-66	-91	3	65	-643		

出典：国際銅研究会

表1-2 2004年LME在庫の変遷

単位：千t

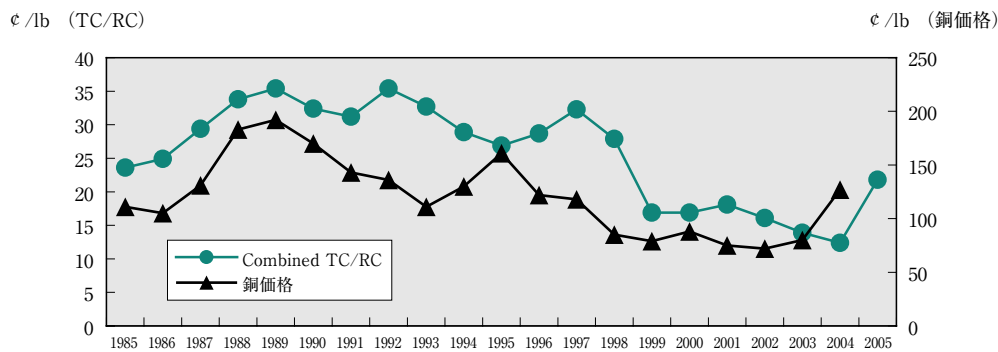
国名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ベルギー	0.175	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025	0.000	0.000	0.000	0.000
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ドイツ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
イタリア	6.075	4.900	3.000	4.000	2.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050
韓国	0.000	0.000	0.000	2.000	3.475	3.475	2.725	12.075	6.125	7.875
マレーシア	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.800	1.100	1.200
オランダ	2.500	0.450	0.400	5.750	2.125	0.050	0.000	0.000	0.000	0.000
シンガポール	0.000	0.000	0.000	0.000	1.500	4.300	3.575	29.925	24.000	23.675
スペイン	27.525	16.400	4.375	3.050	1.350	0.475	0.475	0.475	0.100	0.050
スウェーデン	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.050	0.050
UAE	0.300	0.300	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.600	1.600	1.600
イギリス	30.250	19.225	12.400	10.075	8.575	0.400	0.000	0.000	0.000	0.000
米国	291.250	240.200	167.050	126.300	113.550	92.750	80.825	66.400	58.775	43.425
LME在庫計	358.075	281.500	187.250	151.200	132.600	101.475	87.600	111.275	91.800	77.925

出典：国際銅研究会

＜買鉱条件＞

日本スメルターの2004年積み買鉱条件は、中国やインドの鉱石高値買いの影響等により、過去最低の水準まで落ち込んでいたが、昨年後半以降の銅価格の高騰により主要鉱山の減産解除や中国輸入量の減少に伴い精鉱市場が緩和の方向にある。一部の中

国スメルター向けスポット買鉱条件が年初比3倍増の105ドル/10φまで上昇。この流れを受け、日本スメルターの2005年積み買鉱交渉は昨年の約2倍アップのTC90ドル/t、RC9φ/lbを目指すと言われている（エスコンディータ鉱山（チリ）とPPCとの交渉ではTC85ドル/t、RC8.5φ/lbで妥結と報道）。



出典：Brook Hunt

図1-2 2004年LME在庫の変遷

(3) 今後の市場見通し

国際銅研究会、主要生産者とも2004年の後半以降、地金消費の伸び鈍化により、需給は緩和の方向と予測。従って、銅価格は軟化していくとの見方が一般的（2005年は2,400ドル/t～2,600ドル/tとの予想が多い）。

＜需給バランスの見通し＞

国際銅研究会：2004年の需給バランスは、70万tの供給不足、2005年は地金生産の上昇と地金消費の伸び鈍化により、生産不足が22万tに縮小するものと予測。このうち17万tは供給障害によるものと推定されるため、供給障害がなければ需給はほぼバランスする。

Phelps Dodge：2004年は、最終的には75万tの供給不足になると予想。2005年も供

給不足幅は縮小するも引き続き供給不足は継続と予想。供給不足の理由としては、2000～2002年にかけての銅価格低迷により新規鉱山投資が抑制されたことをあげている。

Codelco：銅の供給不足量が2004年の50万tから2005年は10万tに減少するとの見方を示している。

BHP Billiton：2005年後半には供給不足から供給過剰に転じると予測。

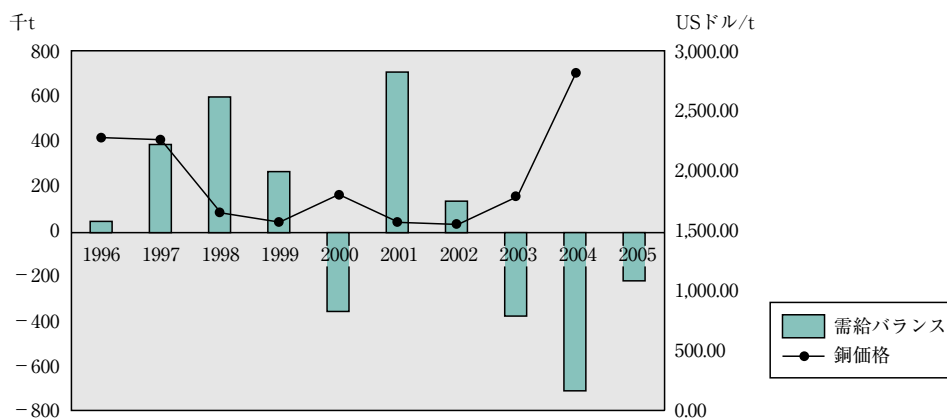
<価格の見通し>

メリルリンチ：2004年の銅価予想を1.2ドル/lb（2,645ドル/t）から1.3ドル/lb（2,866ドル/t）、2005年予想は1.1ドル/lb（2,425ドル/t）から1.2ドル/lb（2,645ドル/t）に上方修正。在庫が依然低水準であることから当面は波乱含みとしながらも、中期的には、チリ等の減産解除により低下傾向にあると予想。

ノランダ：中国が銅価を牽引し、2010年には中国の銅消費は500万t（世界の

25%）に達するものと予想。2004年第4四半期の銅価がドル1.24/lb（2,734ドル/t）、2005年第1四半期は1.17ドル/lb（2,579ドル/t）と予想。

ABARE（豪州農業資源経済局）：2004年の銅価は1.24ドル/lb（2,734ドル/t）、2005年は、供給増大需要鈍化、在庫増大、加えてドル安が銅価に下降圧力として作用し、銅価は1.09ドル/lb（2,403ドル/t）へと12%低下すると予想。



銅	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
鉱山生産量	11,133	11,550	12,260	12,796	13,228	13,626	13,574	13,657	14,554	15,626
地金生産量	12,684	13,488	14,080	14,553	14,774	15,619	15,286	15,210	15,772	16,926
消費量	12,632	13,097	13,474	14,286	15,131	14,899	15,151	15,586	16,473	17,146
需給バランス	52	391	606	267	-357	720	135	-376	-701	-220

図1-3 銅の需給バランスの推移

参考 銅鉱山生産動向

<主要企業の銅鉱山生産動向>

(JOGMEC ロンドン事務所調べ)

2004年1～9月の主要生産者14社の銅鉱山生産量は、今年に入り減産解除が相次いだものの、Grasberg鉱山事故の影響が残り、合計で約0.5万tの微減。第3四半期は増産に転じ、合計では約14.8万tの増産。

2004年1～9月の主要生産者14社の銅鉱山生産量が全体として減産に留まっている最大の要因は、Freeport McMoran社のGrasberg鉱山（インドネシア、03年産716千t：世界第2位）の地すべり事故による減産である。同鉱山では、4月から高品位地域の採掘を開始、6月からは通常生産を開始しているが、同社の1～9月の生産量は、前年同期と比べて253,300tの大幅減であった。2番目に大きな減産としては、Rio Tinto社の135,900tの減産であった。同社においても、Grasberg鉱山の減産の影響が大きく響いた。他にBingham Canyon鉱山（米国、03年産282千t：世界第10位）が品位低下により約10%減産であった。

一方、最大の増産は、世界最大の銅生産者であるCodelco社の100,000tの増産で、これは、Chuquicamata（チリ、03年産607千t：世界第3位）、El Teniente（チリ、03年産335千t：世界第5位）の増産によるものである。2番目に増産幅が大きかったのは、BHP-Billiton社（英、豪）の87,000tの増産で、これは、Escondida（チリ、03年産993千t：世界第1位）がフル生産を回復、Antamina（ペルー、03年産252千t：世界第14位）が通常生産に復帰したことによるものである。この他、世界第2位の銅生産者であるPhelps Dodge社が、1～9月で22,600tの増産、Grupo Mexico社が約39,000tの増産であった。

表1-3 主要銅鉱山生産者の生産実績

単位：千t

会社名 (本社所在国)	2004 1-9	2003 1-9	増減	2004 3Q	2003 3Q	増減
Codelco (チリ)	1,299,000	1,199,000	100,000	476,000	407,000	69,000
Phelps Dodge (米)	808,600	786,000	22,600	282,900	266,300	16,600
BHP-Billiton (英豪)	762,000	675,000	87,000	248,800	241,500	34,300
Grupo Mexico (メキシコ)	651,556	612,385	39,171	217,312	215,170	2,142
Rio Tinto (英)	548,200	684,100	-135,900	174,700	221,400	-46,700
KGHM Polska (ポーランド)	394,196	399,535	-5,339	125,753	134,580	-8,827
Noranda (加)	357,170	322,840	34,330	135,536	99,771	35,765
Freeport McMoRan (米)	259,800	513,100	-253,300	116,300	154,800	-38,500
Falconbridge (加)	248,432	233,461	14,971	97,784	75,035	22,749
Antofagasta (英)	225,503	215,711	9,792	80,430	76,780	3,650
WMC Resources (豪)	164,343	126,659	37,684	61,584	35,337	26,247
Placer Dome (加)	144,695	142,427	2,268	45,813	47,627	-1,814
Newmont (米)	151,470	145,868	5,602	55,308	56,916	-1,608
Inco (加)	95,190	59,114	36,076	35,070	355	34,715
14社計	6,110,155	6,115,200	-5,045	2,153,290	2,005,571	147,719

注：各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。

<2008年までの銅供給能力予測>

銅鉱山の供給能力は、今後4年間で約300万t増加し、2008年は約1,860万tと予測。特に、SX-EW鉱山の生産量が425万tで、42%の増加。一方、地金生産能力 (SX-EW) は4年間で130万t増加し、約1,700万tに。

11月4日、国際銅研究会は、四半期ごとに改定している2008年までの供給サイドの生産能力の予測データを発表。これによると、銅鉱山能力は、今後4年間で2,913千t増加(年率4.4%増)し、2008年は18,625千tと予測。内訳は銅精鉱が14,377千t(年率3.1%増)、SX-EWが4,248千t(年率9.3%増)で、SX-EW鉱山が急増していく見込み。国別で見ると、銅精鉱生産については、チリ(Andina, Escondida等)、

ペルー(Cerro Verde)の増産が大きく影響。SX-EW鉱山については、チリでの新規鉱山(Spence, Gaby Sur)及び既存鉱山(Radomiro Tomic, Escondida等)の増産による。

一方、地金生産能力(SX-EW銅を除く)は、4年間で1,326千t増加し、16,926千t(年率2.1%増)と予測。国別では、チリ、中国、インド、メキシコが大きく増加。

表1-4 2008年までに計画されている世界の銅鉱山・プラント能力

単位：銅金属量千t

	2004	2005	2006	2007	2008
SX-EW	2,988	3,207	3,440	4,067	4,248
精鉱	12,725	13,622	13,743	14,232	14,377
鉱山計	15,713	16,829	17,182	18,299	18,625
溶錬	15,329	15,956	16,385	16,540	16,540
電解精錬	15,600	16,220	16,796	16,926	16,926
精錬計(電解精錬+SX-EW等)	19,370	20,291	21,009	21,766	21,947

年変化(増分)	2004→2005	2005→2006	2006→2007	2007→2008	2004→2008
SX-EW	219	233	628	181	1,261
精鉱	898	121	490	145	1,654
鉱山計	1,117	353	1,117	326	2,913
溶錬	627	429	155	0	1,211
電解精錬	620	576	130	0	1,326
精錬計	921	718	757	181	2,577

出典：国際銅研究会

(2004.11.30)

2. 鉛の国際市況と需給動向 (2004年11月)

金属企画グループ

(1) 国際価格

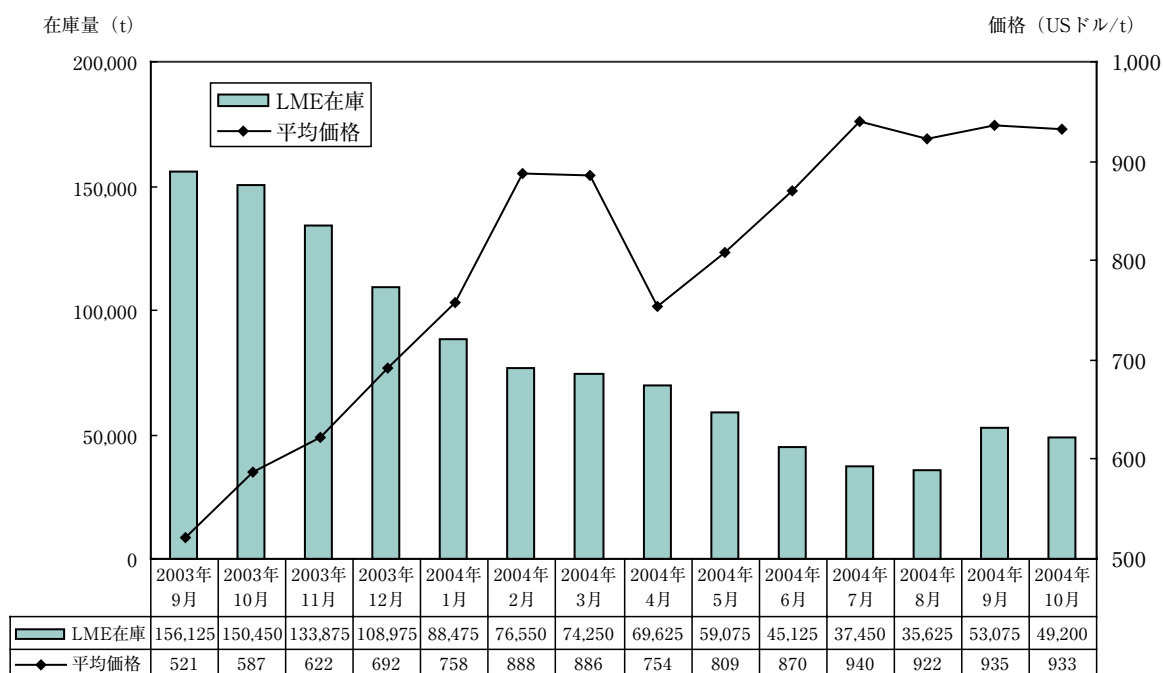
鉛の国際価格は昨年秋以降、中国需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策から上昇を続け、14年振りの高値を付けた。11月に入り鉛は900ドル/tを上回り、11月18日には1,000ドル/tを突破した。

鉛の国際価格は1999年以降、400ドル/t台という価格低迷期が続いていたが、中国需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策等により、昨年秋以降価格上昇が続き、今年2月には971ドル/tと1990年以来14年振りの高値となった。4月にかけて反落し、4月21日には696ドル/tとなったが、7月にかけて再び価格上昇が続き、7月30日に今年最高値となる1,039ドル/tとなった。このときは、亜鉛の価格をも上回ったが、これは、1980年以来24年振りのこ

とである。その要因としては、鉱山及び一次スマルター生産が減少傾向にあり需給がタイト化していたこと、LME在庫量が激減していたこと等が考えられる。その後は800～1,000ドル台の間で推移し、10月12日から14日の銅価急落時の下げ幅は142ドル(14.0%)であった。11月18日には鉛価格は1,002ドル/tとなり、1,000ドル/tを突破した。11月30日現在、991ドル/tとなっている。

資料

ベースメタル国際動向



出典：国際鉛亜鉛研究会資料

図2-1 鉛価格と鉛在庫量の推移

(2) 需給 (2004年1~9月)

- ① 鉱山生産は、米国の減産により2.3%減。地金生産は1.1%増。消費は中国、台湾で増加し、2.2%増。
- ② 需給バランスは132千tの供給不足で、不足量は拡大している。
- ③ LME在庫量は昨年秋以降急減し、7月、8月には40千tを下回る歴史的低水準。

今年1~9月の鉛鉱山生産は2,260千tであり、前年比2.3%減となった。これは、主に米国での減産による。1~9月の鉛地金生産は、前年比1.1%増の5,039千tであった。1~9月の鉛消費は、5,171千tと前年比2.2%増となった。中国で55千t (6.2%)、台湾でも23千t (21.5%) 増加した。

この結果、需給バランスは、供給不足量が昨年より拡大しており、1~9月で132千tの供給不足となった。LMEの鉛在庫量は、昨年8月に161千tあったものが昨年秋以降減少し、今年8月には35千tまで減少した。10月には49千tまで回復したが、依然として1990年以来の歴史的低水準にある。

表2-1 鉛の需給状況

単位：千t

鉛	2002	2003	2003	2004										前年同期比 (%)
			1~9	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1~9	
鉱山生産量	2,830	3,097	2,313	237.3	241.7	250.8	260.3	259.5	253.4	261.3	253.5	249.1	2,260	-2.3
地金生産量	6,663	6,718	4,984	555.6	541.7	566.8	578.8	577.5	571.8	550.3	545.1	573.8	5,039	1.1
消費量	6,655	6,803	5,058	577.8	585.6	583.5	566.4	562.2	581.4	577.5	555.6	576.9	5,171	2.2
需給バランス	8	-85	-74	-22.2	-43.9	-16.7	12.4	15.3	-9.6	-27.2	-10.5	-3.1	-132	

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 2004年LME国別鉛在庫量の推移

単位：千t

国名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
米国	72.0	63.0	59.7	55.6	42.9	31.1	23.4	16.8	13.7
イタリア	12.3	12.3	12.3	12.3	10.3	10.3	9.5	9.8	9.8
オランダ	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	4.3	4.3
シンガポール	1.5	0.3	1.3	1.0	5.2	3.1	4.0	4.3	25.0
その他	2.1	0.7	0.7	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.3
合計	88.5	76.6	74.3	69.6	59.1	45.1	37.5	35.6	53.1

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

(3) 今後の需給・価格見通し

- ① 世界の鉛鉱石生産見通し
2004年：3,138千t (1.3%増)
2005年：3,318千t (5.7%増)、増産：豪州、中国、アイルランド
- ② 世界の鉛地金生産見通し
2004年：6,722千t (前年並み)
2005年：6,997千t (4.1%増)、増産：中国、豪州、カナダ、インド及び英国
- ③ 世界の鉛地金需要見通し
2004年：6,977千t (2.8%増)、中国の消費量 (9.0%増)
2005年：7,133千t (2.2%増)、中国の消費量 (8.5%増)
- ④ 以上より、世界の鉛地金供給は、2004年に195千t不足、2005年に76千t不足すると予測。2005年は生産の増加、需要の伸びの鈍化により需給は緩和の方向。
- ⑤ バークレイズ・キャピタルによれば、価格は2005年以降、徐々に軟化が予想されている。

国際鉛亜鉛研究会によると、世界の鉛鉱石生産量は、2004年に1.3%増加し3,138千tに、2005年には5.7%と大幅に増加し3,318千tとなると予測される。これは、主に豪州、中国、アイルランドにお

いて引き続き増産となることによる。

2004年の世界の鉛地金生産量は、豪州、中国及び英国における稼働製錬所の中止と中国及びカザフスタンにおける増産が均衡し、2003年とほぼ同じ

く6,722千tとなると予測される。2005年には4.1%増の6,997千tが予測され、これは中国、豪州、カナダ、インド及び英国の製錬能力の増加による。

世界の鉛地金の消費量は、2004年に2.8%上昇し6,977千tに、2005年には更に2.2%上昇し7,133千tになると予測される。この上昇は、主として中国の消費量が2004年に9.0%、2005年には8.5%それぞれ増加することによる。2000年との比較では、中国の需要は2倍以上となる。これは主に自動車用・産業用バッテリー生産の急増によるものである。米国は、依然として世界最大の消費国で2004年・2005年は、2003年の1,500千t強と同レベルとな

ると予測。

世界全体の鉛地金供給は、2004年に195千t不足、2005年に76千t不足すると予測される。

バークレイズ・キャピタルによれば、2004年は供給不足やバッテリー需要期入りを背景に今後も強調推移し、平均価格は876ドル/tと予測される。需給は、2004年が143千tの供給不足となるが、その後は2005年が41千t、2006年は68千t、2007年は62千t、2008年は10千tの供給過剰が予測されている。価格は2005年が800ドル/t、2006年は710ドル/t、2007年は700ドル/t、2008年は650ドル/tへと緩やかに軟化が予測されている。

表2-3 世界の鉛需給バランス

鉛	単位	1999	2000	2001	2002	2003	2004 (予測)	2005 (予測)	2003/2004 増加率 (%)	2004/2005 増加率 (%)
鉱石供給量	千t	3,010	3,046	2,997	2,830	3,098	3,138	3,318	1.3	5.7
地金供給量	千t	6,032	6,658	6,578	6,669	6,700	6,722	6,997	0.3	4.1
消費量	千t	6,216	6,525	6,499	6,655	6,789	6,977	7,133	2.8	2.2
米国備蓄放出	千t	61	32	41	6	60	60	60		
地金需給バランス	千t	-123	165	120	20	-29	-195	-76		
年平均価格	USドル/t	502.24	454.22	476.04	452.52	515.66	869.58		68.6	

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

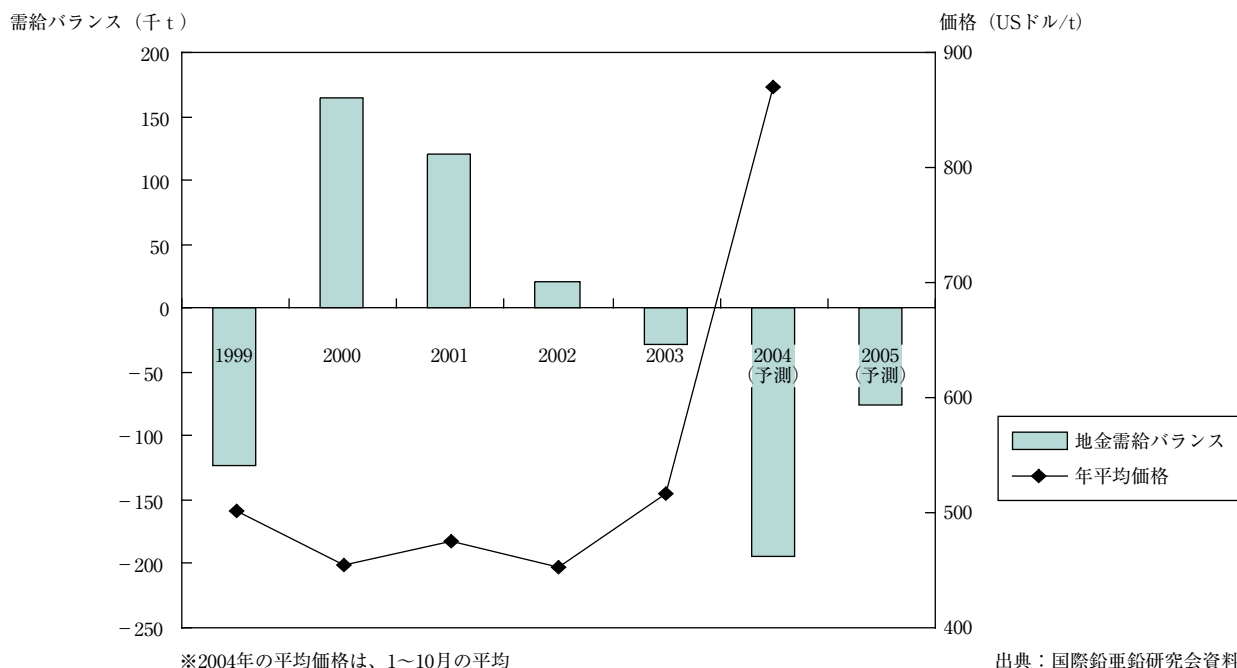


図2-2 世界の鉛地金需給バランス

(2004. 11. 30)

3. 亜鉛の国際市況と需給動向（2004年11月）

金属企画グループ

(1) 国際価格

亜鉛の国際価格は昨年秋以降、中国需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策から上昇を続け、亜鉛は4年振りの高値を付けた。11月に入り亜鉛価格は上昇し、再び1,100ドル台に突入している。

亜鉛の国際価格は2001年から700～800ドル/台という価格低迷期に入っていたが、鉛と同様に昨年秋以降上昇し、昨年末には1,000ドル/台に回復した。今年に入っても亜鉛価格は上昇を続け、3月1日には1,155ドル/台の4年振りの高値を付けた。その後、9月にかけて価格は低落し、9月6日に今年の最安値である943ドル/台となった。

9月末からは、ファンド筋の資金流入加速により、価格が急騰し、10月11日に1,168ドル/台の今年最高値を付けたが、銅価格の急落を受けて3日間で12.6%（147ドル）下落し、急騰前の水準に戻った。11月に入り亜鉛価格は再び上昇し、11月16日には1,100ドル/台を突破した。11月30日現在、1,164ドル/台となっている。

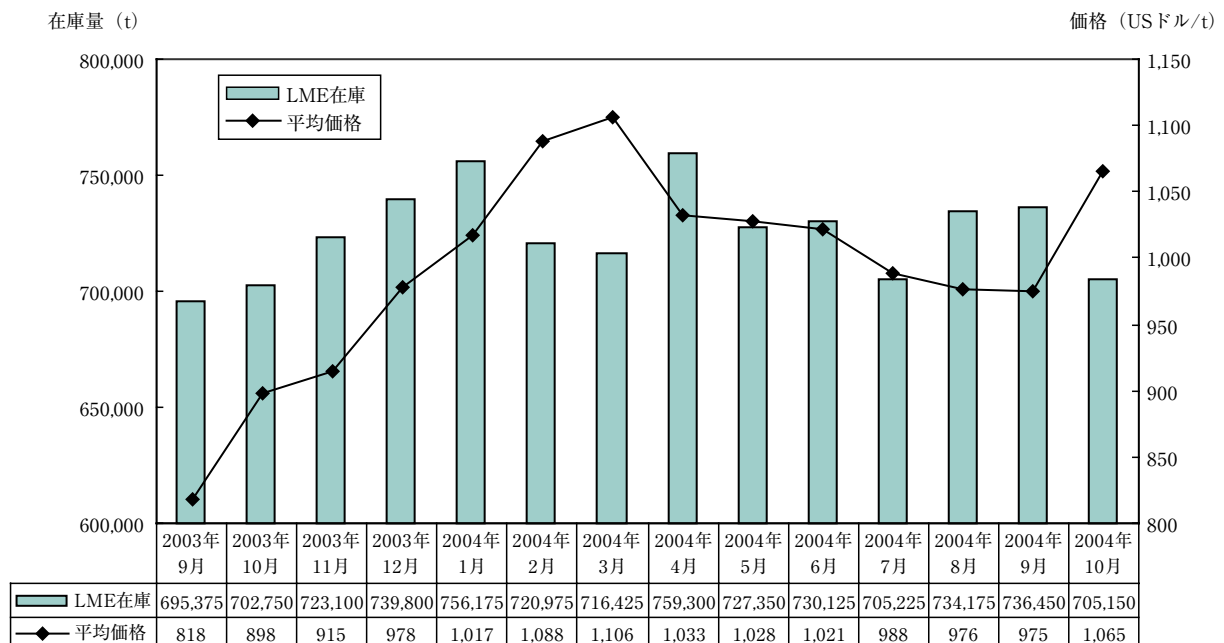


図3-1 亜鉛価格と亜鉛在庫量の推移

資料

ベースメタル国際動向

(2) 需給 (2004年1~9月)

- ① 鉱山生産は前年並み。地金生産は、中国、ナミビアで増加し、3.4%増。消費は中国、米国で増加し5.7%増。
- ② 需給バランスは228千tの供給不足で、不足量は拡大している。
- ③ LME在庫量は、700千t台で安定。

今年1~9月の亜鉛鉱山生産は7,192千tであり、対前年比0.9%増、1~9月の亜鉛地金生産は7,580千tで、前年比3.4%増となった。地金生産の増加は、中国の195千t増、ナミビアの63千t増が主要因である。1~9月の亜鉛消費量は7,808千tで、前年比5.7%の増加。中国で169千t (10.5%)、米国でも81千t (9.4%) 増加している。

需給バランスは、2003年から供給不足となっており、今年1~9月は228千tの供給不足であり、不足量は拡大しているが、銅や鉛に比べ世界消費に対する比率は低い。亜鉛のLME在庫量は、昨年10月以降、700千t台で安定しており、比較的高い水準にある。

また、亜鉛の買鉱条件については、亜鉛価格低迷時に亜鉛鉱山が相次いで閉山ないし休山したため、現在亜鉛精鉱の需給はひっ迫しており、それを反映し、日本スマルター向けのTC (溶錬費) は、2002年、2003年とも、それぞれ20ドルの引き下げ、さらに、2004年積みは6.5ドル下げの147ドル/tと低水準にある。2005年についても亜鉛精鉱需給は引き続きひっ迫するものと予想されており、Metals Week誌によれば、価格が1,000ドル/tベースでTCは2004年と比較して5~15ドル/t程度低下するものとみられている。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位：千t

亜鉛	2002	2003	2003	2004											前年同期比 (%)
			1~9	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1~9		
鉱山生産量	8,900	9,577	7,127	763.4	756.6	811.7	802.8	805.5	796.9	833.2	815.7	810.7	7,192	0.9	
地金生産量	9,712	9,859	7,330	803.9	810.2	846.0	826.2	864.6	874.4	837.8	857.4	861.1	7,580	3.4	
消費量	9,397	9,847	7,390	824.9	763.8	873.7	891.0	889.8	864.1	868.7	913.3	857.4	7,808	5.7	
需給バランス	315	12	-60	-21.0	46.4	-27.7	-64.8	-25.2	10.3	-30.9	-55.9	3.7	-228		

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 2004年LME国別亜鉛在庫量の推移

単位：千t

国名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
米国	343.0	331.9	332.3	335.8	329.4	321.1	312.1	324.9	321.3
イタリア	43.9	42.9	52.6	77.2	76.3	102.6	102.1	124.1	123.0
UAE	120.9	114.6	124.6	165.2	153.8	148.2	140.1	132.3	124.0
シンガポール	160.2	148.9	125.9	110.5	99.8	98.6	97.3	101.4	114.8
オランダ	37.7	34.0	33.3	32.4	35.0	33.9	31.0	30.2	29.3
英国	14.2	13.9	13.5	13.3	12.8	12.2	11.8	11.4	10.9
その他	36.3	34.8	34.2	24.9	20.3	13.5	10.8	9.9	13.2
合計	756.2	721.0	716.4	759.3	727.4	730.1	705.2	734.2	736.5

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

(3) 今後の需給・価格見通し

- ① 世界の亜鉛鉱石生産見通し
2004年：9,773千t (2.1%増)
2005年：10,270千t (5.1%増)、増産：中国 (6.8%増)
- ② 世界の亜鉛地金生産見通し
2004年：10,138千t (3.1%増)
2005年：10,631千t (4.9%増)
- ③ 世界の亜鉛地金需要見通し
2004年：10,342千t (4.8%増)、中国の消費量 (10.4%増)
2005年：10,784千t (4.3%増)、中国の消費量 (11.3%増)
- ④ 以上より、世界の亜鉛地金供給は、2004年に169千t不足、2005年に118千t不足すると予測。
- ⑤ バークレイズ・キャピタルによれば、価格は2005年がピークとなると予測されている。

国際鉛亜鉛研究会によると、世界の亜鉛鉱石生産量は、2004年に2.1%増加し9,773千tに、2005年には5.1%増加し10,270千tとなると予測される。2004年は、豪州とペルーで減産するものの、カナダ、中国、インド、アイルランド、スウェーデン、米国、ナミビア(Anglo American社のSkorpion鉱山でほぼフル生産)で増産があり、豪州とペルーの減少分を上回る見込み。2005年は、中国雲南省にあるLanping鉱山が生産開始する等、多くの中小鉱山の増産で中国の生産が6.8%増、豪州、インド、アイルランド、メキシコ、ナミビア、ペルー、スウェーデン、米国でも増産を予測。

世界の亜鉛地金生産量は、2004年に3.1%増加し10,138千tに、2005年には4.9%増加し10,631千tとなることが予想される。2004年は、Cockle Creekプラント閉鎖(2003年9月)により豪州が減少するものの、カナダ、中国、カザフスタンで更に増加し、カザフスタンでは新規のBalkhashプラントがフル生産に近づく予想。豪州、インド、韓国、ナミビア、ノルウェー、米国でも増加を予想。

同研究会は、世界の亜鉛地金の需要は、2004年に4.8%上昇し10,342千tとなると予測する。2005年には更に4.3%上昇し、10,784千tとなると予測する。この上昇は主に中国における亜鉛メッキ鋼の消費量が引き続き増加することによるもので、道路、鉄道及び変電所の建設といったインフラ整備や住宅、自動車及び大型家電製品部門での需要急増も見込まれている。このため、中国の消費は2004年で10.4%、2005年には11.3%の増加が見込まれている。

世界全体の亜鉛地金供給は、2004年に169千t不足、2005年に118千t不足すると予測される。

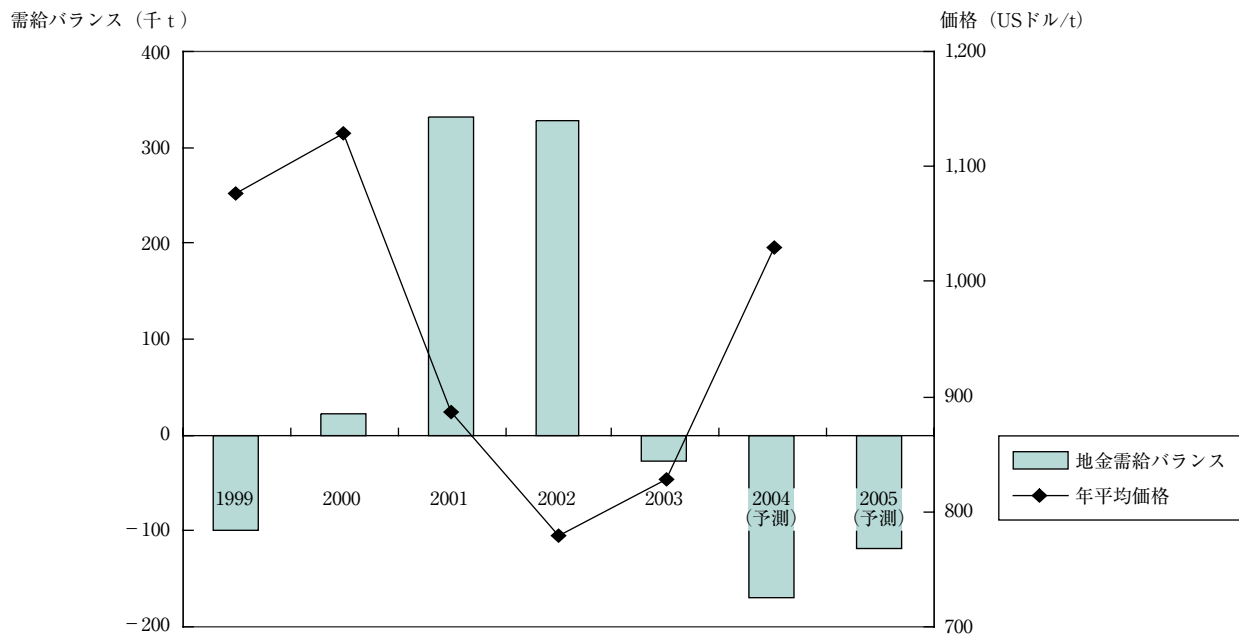
バークレイズ・キャピタルによれば、亜鉛需給は2004年が200千t、2005年は212千tの供給不足となり、その後は供給過剰となり、過剰量は2006年に133千t、2007年に268千t、2008年は227千tと予測される。価格は2004年が1,031ドル/t、2005年には1,150ドル/tへ上昇が予測され、その後2006年は1,100ドル/t、2007年は1,075ドル/t、2008年は1,050ドル/tへと下落が予測されている。

表3-3 世界の亜鉛需給バランス

単位：千t

亜鉛	単位	1999	2000	2001	2002	2003	2004 (予測)	2005 (予測)	2003/2004 増加率 (%)	2004/2005 増加率 (%)
鉱石供給量	千t	8,068	8,839	8,934	8,901	9,574	9,773	10,270	2.1	5.1
地金供給量	千t	8,369	8,981	9,227	9,712	9,832	10,138	10,631	3.1	4.9
地金消費量	千t	8,490	8,997	8,918	9,387	9,866	10,342	10,784	4.8	4.3
米国備蓄放出	千t	22	39	23	3	7	35	35		
地金需給バランス	千t	-99	23	332	328	-27	-169	-118		
年平均価格	USドル/t	1,077.32	1,128.11	886.27	778.56	828.39	1,029.72		24.3	

出典：国際鉛亜鉛研究会資料



※2004年の平均価格は、1～10月の平均

出典：国際鉛亜鉛研究会資料

図3-2 世界の亜鉛地金需給バランス

(2004.11.30)